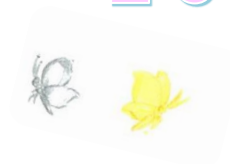


SSKU

2021年度

春号



お元気ですか？ イリアンソスです。



Page2 理事長の散歩道

Page3 特集「新人職員座談会～1年を振り返って～」

Page6 活動報告

Page7 がんばれ！イリアンソス

「新年度、春の日差しの中で」

社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

新年度が明けても新型コロナウイルスは感染拡大が止まりません。引き続き利用者、スタッフ一同本心に頑張つて感染対策を行つてくれています。

コロナ禍での散歩道

イリアンソスの初代理事長で亡き石原先生は、よく山に出かけられて草花の水彩画を描かれていました。生前、少しでも運営の足しになればと先生は、ご自身の水彩画の作品の販売をしていただきました。相当な数の絵ですので、今も数点わたしの手元で保存させていただいています。石原先生の良く出かけた山は、奥武蔵の正丸、西吾野から河口湖、千葉や北アルプスなど大変広範囲に及んでいました。そして、描いた絵は「アザミ」や「キツコウハグマ」「カキドウシ」など山の花から野原に自生する花の絵です。とても温かみがある絵です。先生は医

者でしたから、植物の細部を下に描かれていました。

わたしも、健康と気分転嫁のために10年位前から奥多摩や奥秩父などに行くようになりました。年齢的にそろそろ限界ですが、最近では、甲武信岳や瑞牆山、南アルプスなどにも挑戦しています。ただ、わたしは石原先生のように絵を描きませんが、写真を撮つて山の思い出としています。以前、先生の水彩画に書かれている地名や花の名前をみて、三峰山や甲斐駒ヶ岳のふもとの白州での草花の絵などあり、その影響もあったのかなんとなく自分もそうした可憐な花を撮るようになりました。この年齢になるとそうした道端の可憐な花に魅力を感じるようになるのでしょうか。これからも、そうした草花の魅力を感じていきたいと思っています。ただ、この一年新型コロナウイルスで山に

も行けなくなり、近所の散歩も楽しむようになっています。そこでも草花をよく見ますが、最近では野鳥も写真に撮るようになりました。「シジュウカラ」や「ムクドリ」、「カルガモ」まあ、よく見かける鳥たちです。よく見るととてもかわいいですね。たまに「アカゲラ」を見かけたこともありウキウキします。

先日、活動センターかなえからのぞみの家に自転車移動中、東久留米市の落合川沿いを春の日差しが気持ちよくてゆっくり走っていました。すると団地のそばの川沿いで青い鳥が飛び去つて行く姿を見ました。

「え」と思つてゆっくり飛んで行った方向に進んでいくと「カワセミ」が枝にとまっています。そのときは、仕事でだったのでカメラを持っていなかったのですがスマホで写真

を撮りました。残念ながら小さく焦点もあっていませんでした。でも写真が撮れてとても興奮しました。たまに落合川沿いには、長い望遠レンズを付けたカメラをもった人たちがずっと並んでいる姿がありましたので、「カワセミ」が落合川沿いにいることは知っていました。でも、実際に見れるなんて思つてもいませんでした。その日から、朝早く出て「カワセミ」の写真を撮るために遠回りをして出勤しています。でも、なかなかうまくはいきませんね！



作：石原氏（初代理事長）
「ムラサキケマン」

特集

職員座談会 ～1年を振り返って～

今回の特集は、「職員座談会」入職してからの振り返ります。日々の仕事で大切にしていることや目標などを聞きました。



(広報委員・福田)

自己紹介と入職のきっかけを教えてください。

(斉藤) 2020年10月から生活寮で勤務しています。

以前は、就労B(作業が中心の事業所種別)で働いていました。グループホームに興味があり応募しました。

(室澤) 2020年8月か

ら、のぞみの家で働いています。これまで障害分野で働いてきました。どこも楽しくて様々な利用者さんがいることを知りました。難しいけど面白い仕事でもあると魅力を感じています。

(志賀) 2020年4月か

ら、活動センターかなえで働いています。弟がイリアンソ

スの「このみ(児童放課後等デイサービス)」を利用して、自分もアルバイトで関わっていました。大学を卒業したタイミングで面接を受けてみようと思いました。

(中澤) 2020年4月から生活寮で勤務しています。大学の頃からアルバイトとして楽しく、やりがいを感じたので採用試験を受けました。

(菅野) 2020年4月から、のぞみの家で働いています。高校3年生の頃に漠然と福祉の道を決めて大学に進学。魅力的なゼミに惹かれて、そこで知的障害の方々と交流するボランティアを経験しました。イリアンソスを見学して決めました。

(福田) アルバイトの経験や見学をしてみてもいいですね。6ヶ月～1年働いてみて印象に残った出来事などありますか？





(齋藤) 生活寮は皆さんの生活が長く続いていると感じました。優しくいろいろと気を遣って受け入れていただいています。退勤するときに玄関までお見送りをしてくれたことがありました。その後、居室に戻って就寝されるそうです。利用者の皆さんに心配されながら育ててもらっています。

(中澤) 生活寮は、一人ひとりのペースで過ごしているのがいいなと思いました。朝の送迎バスに乗られない方がいて、支援が難しいと思いました。声かけやタイミングが掴めず出発することができないことが多かったです。皆さん、スタッフの動きや性格もよく見ていると感じます。

(室澤) 皆さんの笑顔が見られるのは

楽しい。共通の話題があると、それを中心に会話が広がって関係ができていくと思います。日頃の些細なやりとりの積み重ねからその人らしさが見えてくると嬉しいです。

(広報委員・福田) 一緒に散歩に出かける利用者さんの姿を見ると信頼関係ができてきているなと思います。

(菅野) 毎日楽しく働いています。担当のグループではない方や接する時間が短い方でも気さくに話しかけてきてくれたりするとすごく嬉しいです。

(志賀) 入職当時は自分のメカネが気になる利用者の方がいて、近くに行くこと投げられてしまったことも多かったです。最近は、やり取りも増えてきています。一人ひとりの表現方法に戸惑うこともありませんが、少しずつ理解していくようにしています。

(広報委員・福田) 日中と寮での様子も様々ですね。利用者さんに色々と教えられることはありますね。では、ここで質問コーナー。それぞれで聞いたことはありますか？

(室澤) 日々の仕事で大事にしていることはありますか？

(志賀) 焦らずにやりたいなと思っています。利用者さんのペースで支援をしたいと思っています。自分がこうして欲しいと思っても、なかなかその通りにいかないことも多いので、利用者

参加者紹介

2020年4月入職

菅野優香 (のぞみの家・生活介護)
志賀慧至 (活動センターかなえ・生活介護)
中澤和奏 (生活寮・共同生活援助)

2020年8月入職

室澤隼也 (のぞみの家・生活介護)

2020年10月入職

齋藤尚志 (生活寮・共同生活援助)

さんのペースに合わせながら、本人ができるように環境を工夫することを心掛けています。できたら一緒に喜ぶことができなくても、まあそれはそれでそういうこともあるっていうふうに思っています。

(菅野) 自分が楽しくないのに相手も楽しくないなと思いがち、まずは自分が楽しめるように活動を考えたりします。その時に今までの方法だけじゃなかったり、やり方を変えてみたりしながら可能性を広げたいなと思っています。失敗しても色んなことをして広げていきたいと思っています。

(中澤) 利用者さんとの距離感を考え



ています。近過ぎず離れ過ぎずにしています。生活の場なのでそれぞれのペースで自由に過ごしたいと思います、その距離感を大事にしています。自分の世界を過ごしたいように過ごせるようにしています。目は離さないけど声を掛

け過ぎないで、その人の時間を大事にするようにしています。

(齋藤) それぞれの心地良さだったり過ごしやすさだったりを考えながらやっています。今日は楽しそうだったから明日もうちよつとやってみよう、とか今日は不快そうだったから明日はちよつと相談して違う方法をやってみよう、とか色々と考えています。一人ひとりの反応や表情をよく見るようにしています。

(室澤) 一人ひとりの要求を大事にしていきたいです。作業が立て込んでいると利用者さんの声を聴く余裕がなくなってしまうので、丁寧に話を聞いていきたいと思っています。

(広報委員・福田) では、最後に今後の目標を聞いて終わりにしたいと思います。

(中澤) 過ごしやすい環境を作ることや大事なしていきたいです。日々の穏やかな日常と共に行事とか余暇の時間を充実したものとなるようにしていきたいです。

(室澤) 社会と関われる活動をたくさんしていきたいです。外に出ることや利用者さんの新たな姿を知ることができるとは思いません。

(菅野) 自分の担当のグループ以外の利用者さんともたくさん関わってきたいです。先日、行事の担当になり、

利用者さんが楽しんでる姿を見てうれしくなりました。これからも行事を計画して、色々なことに挑戦してみたいです。

(志賀) レクリエーションとか旅行とか外での活動をたくさんしてみたいです。さらに楽しい時間を一緒に共有したいです。

(齋藤) 利用者さん、先輩職員から学びながら一つずつ仕事を覚えていきたいと思っています。

(広報委員・福田) それぞれの気づきや大事にしていることが聞けました。支援に対する気持ちは共通していることも多かったかなと思います。

本日は、ありがとうございました。

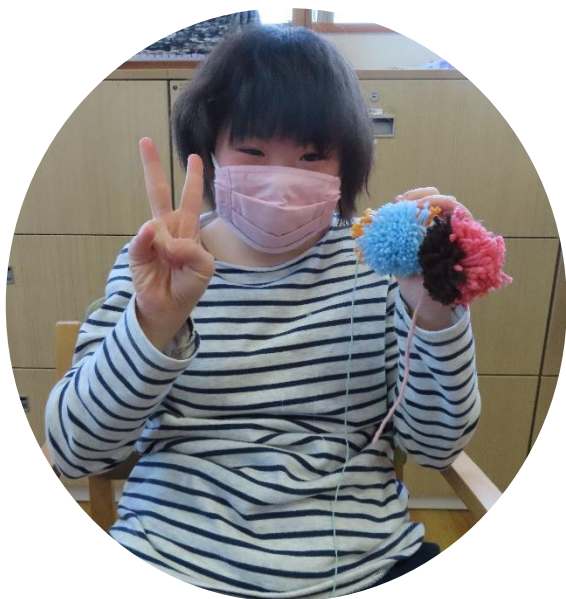


活動センターかなえ

清瀬特別支援学校より、山崎千尋さんが入所されました。

かなえでは、ちゅーりっつぶ班に所属し、仲間と一緒に楽しく活動しています。自治会でみんなと一緒に決めた班での役割は、『ラジオ体操』と『お給料準備』になりました。朝の会で行うラジオ体操では、前に出て、みんなの見本となって体操しています。

お給料準備は、利用者全員の給料袋にお金を間違えないように丁寧に入れることができます。かなえでの仕事は、手先が器用で、主にボンボン作りをしています。1日1〜2個のペースでボンボンを作ることができます！これからは新しくかなえの屋上で始めたプランター菜園や、**ちゅーりっつぶ**てんの仕事にも取り組む予定です。ちゅーりっつぶ班の仲間たちとお話するのが大好きな明るく元気な方です。これからもよろしくお願ひします。



▲最前列両側の2名の絵がシャツになって販売されました。



のぞみの家

絵画制作へラルボニーさんとのつながり

株式会社へラルボニーは『異彩を、放て。』をミッションに、芸術活動をさまざまな形で社会に送り届け、福祉を起点に新たな文化をつくりだしていこうとしている企業です。きょうさんの「グッズデザインコンクール」のつながりから交流が始まりました。過去の作品からTシャツやスカーフが商品となっています。

今後も色々な場所での展示が予定されています。

のぞみの家のおひさま班の絵画活動は自分の気持ちを絵画で表現するという目的が始まりました。絵のテーマ決め・色選び・画法の検討など、その都度スタッフとやり取りをおこないながら決めていきます。その一つ一つの場面への参加と決定の積み重ねが1枚の絵となります。年に一度、のぞみの家の作品展でも多くの方に見ていただけるようになりました。障害のある方の芸術活動や表現活動への注目が高まってきて発信する機会も増えてきています。絵画活動の原点を忘れずにこれからも続けていきます。写真は、おひさま班にへラルボニーの西野さんが見学に来た時の一枚です。

「がんばれ！イリアンソス」
(一般社団法人) Polyphony

リカバリーカレッジ・ポリフォニー

代表理事・管理者 時田 良枝 さん

リカバリーカレッジ・ポリフォニーは、東久留米駅北口から徒歩3分ほどのところにある精神障害者を主な対象とした生活訓練事業所です。2018年9月にオープン、現在活動をはじめて3年目に入りました。

私個人は、作業療法士としてこれまで20年程、民間精神科病院に勤務してきました。その後、障害者の地域での暮らしに寄り添った仕事がしたいと、地元NPOにて5年ほど働き、その中で相談支援専門員としての経験から、福祉サービス利用の登録はあるものの利用できないままにひきこもって暮らす障害者の多さを感じ、そうした方が通うことが出来る居場所を作りたい、という思いが現在の仕事の開始につながっています。

今、リカバリーカレッジ・ポリフォニーには、10代から50代までの様々な世代の方が通われています。いずれも、この地域で何のサービス、支援にも繋がらず、個人もしくはご家庭だけで孤立した状況にあった方々です。見学に来られた経緯なども、必ずしも障害者サービスとしての相談からではなく、本当に様々です。

また生活訓練事業は卒業がある事業でもあり、卒業後、この地域で孤立しないこと、そのために、自分たち職員だけではなく、地域に暮らす多様な方々と知り合い、新たなつながりを作っていく場として活動していきたい、と考え、地域の様々な方々にご協力いただきながら、いろいろなプログラムを展開しています。また、ご本人のペースで利用出来ることを大切に、週に1回1時間だけのご利用、不定期参加の方も含め、皆さん

様々なペースで通われています。多くの方が、ご本人のペースが守られる、それだけで、緊張から一段降り安心感を持って通われ出す姿をみるにつけ、ご本人がご自分で暮らしのペースを決められることの大切さを感じています。

昨春秋より、のぞみの家さんにも、社会体験プログラムとして、事業所内の掃除を行いに行っています。顔を合わせての活動の中で、のぞみの家の皆さんと、〇〇さんと〇〇さん、という固有名詞の関係として出会うことが出来ており、非常に貴重な機会であることを感じています。

現在、ポリフォニーでは、1期生の卒業を踏まえ、東久留米市商工会さんと協力しながら、一人ひとりのペースを生かした仕事の場作りを広げようとしているところです。

通うことにエネルギーの多くを割かずにすむ地元で、自分にとって出来る短い時間数からトライできる仕事がある、ということは、障害者が働く、ということを考えて時、とても大きな光です。働いてみたい、と考えた方が、選択出来るものを増やすこと。社会の側へのアプローチ、まちづくりとしての福祉は一番足りておらず、しかし最も必要とされること、であるように感じています。

長く地元で活動されてきたイリアンソスさんにも、たくさん学びたいと思っています。そして、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

これからもどうぞよろしくお願い致しますね。



▲メンバーさん作成



▲時田さん

ご寄付をいただきました(3月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様

梅原雅子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-452-6405

042-452-6415 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町3-8-23

042-473-9667

～編集委員のつぶやき～

この春から、息子たちの少年野球チームの監督をしています。コロナ禍でも、子ども達は以前と変わらず、楽しそうに野球をしています。その姿を見ると、日常の大切さを改めて感じます。

中西亮太 (なかまの家)

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-1

ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵

中西亮太・疋田史江・花形優 ・鈴木友佳里

松森大輔・廣智章 ・吉坂慧佑

※ホームページからもご覧いただけます。

イリアンソス



定価100円

表紙の写真

活動センターかなえの正面玄関にて、新入所の山崎さんを真ん中に1枚。これからもよろしく願います。

挿絵：くらげ (ペンネーム)